

小谷 A 遺跡 調査説明会資料

平成 20 年 9 月 23 日（火・祝）13：30～

三重県埋蔵文化財センター



小谷 A 遺跡調査後全景（西から）

1 はじめに

こたに 小谷 A 遺跡は、まつさかしうれしのちょう 松阪市嬉野町にある標高約 37m の てんげいじきゅうりょう 天花寺丘陵の、北側の緩やかな斜面にあります。ここに道路が作られることになったので、みえけんまいぞう 三重県埋蔵文化財センターでは、発掘調査を行いました。その結果、やよい 弥生時代終わりごろ（今から 1,800 年ほど前）の墓（ほうけいしゅうこうぼ 方形周溝墓）がみつかりました。

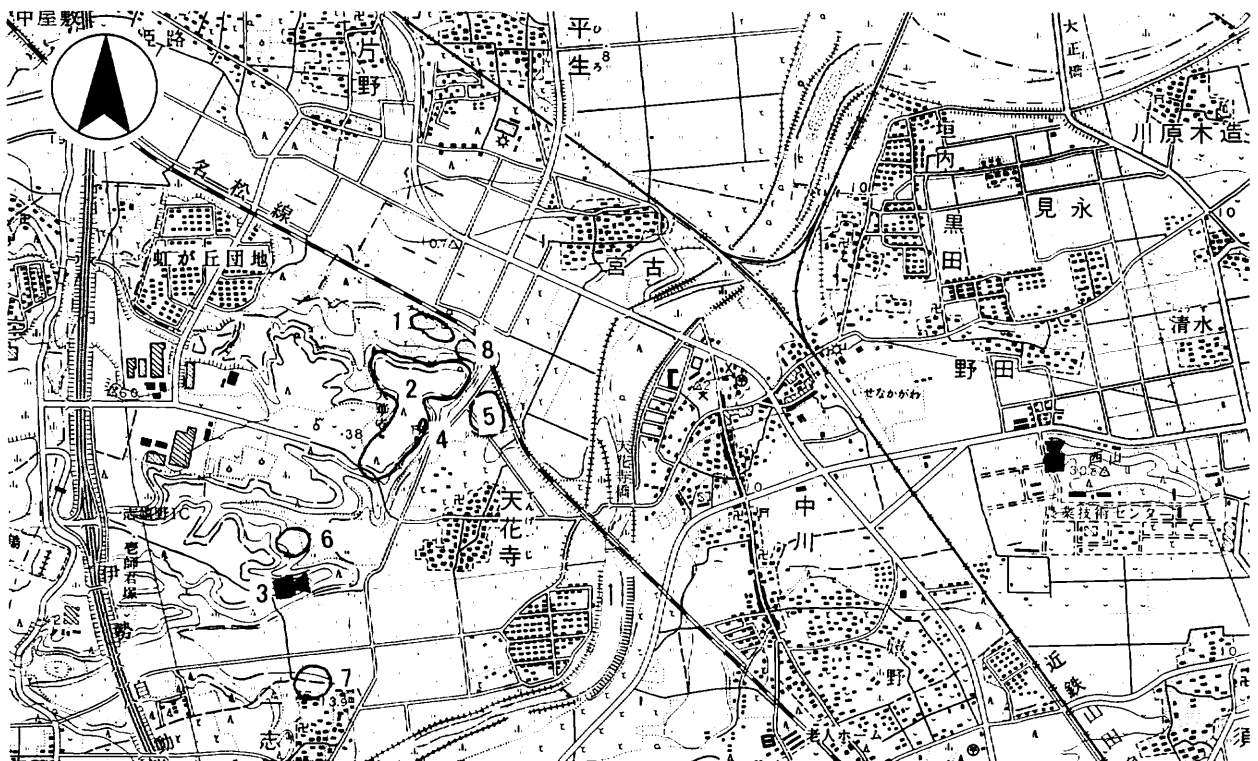
2 周辺の遺跡

まつさかしうれしのちょう
松阪市嬉野町周辺は、古くから開けてきた地域です。こたに
小谷A遺跡（1）のある
天花寺丘の陵周辺でも、じょうもん
縄文時代始めごろ（12,000年ほど前）から江戸時代
にわたっての遺構（地面に残る生活の痕跡）、いぶつ
遺物が見つかっています。

小谷A遺跡で墓の見つかったやよい
弥生時代終わりごろには、丘陵上にあるこたに
小谷
あかさか
赤坂遺跡（2）でたてあなじゅうきよ かんごう
堅穴住居や環濠（集落を区画するほり）が見つかり、大規模な
集落があったと考えられています。

次のこふん
古墳時代（1,600～1,300年ほど前）には、継続的に古墳が造られます。
丘陵の南の方には全長40mのぜんぼうこうほうふん つつの
前方後方墳である筒野1号墳（3）があります。
また、小谷13号墳（4）では、よろい
鎧やたくさんの鉄製武器が出土しました。

嬉野町周辺ではこたにいじん
古代寺院も多く見つかっていますが、丘陵周辺には、てんげいじ
天花寺
はいじ
廃寺（5）、なかたにはいじ
中谷廃寺（6）、いちしはいじ
一志廃寺（7）があり、てんげいじかまあと
瓦を焼いた天花寺窯跡（8）
も見つかっています。



周辺の遺跡（縮尺は25,000分の1）

3 調査の成果

今回の調査では、^{やよい}弥生時代終わりごろ（1,800年ほど前）の、^{ほうけいしゅうこうぼ}方形周溝墓 ※といわれる墓6基と、中世の溝1条などの遺構が見つかりました。削られていたためか、方形周溝墓はいずれも埋葬部分は確認できず、溝だけが確認されました。

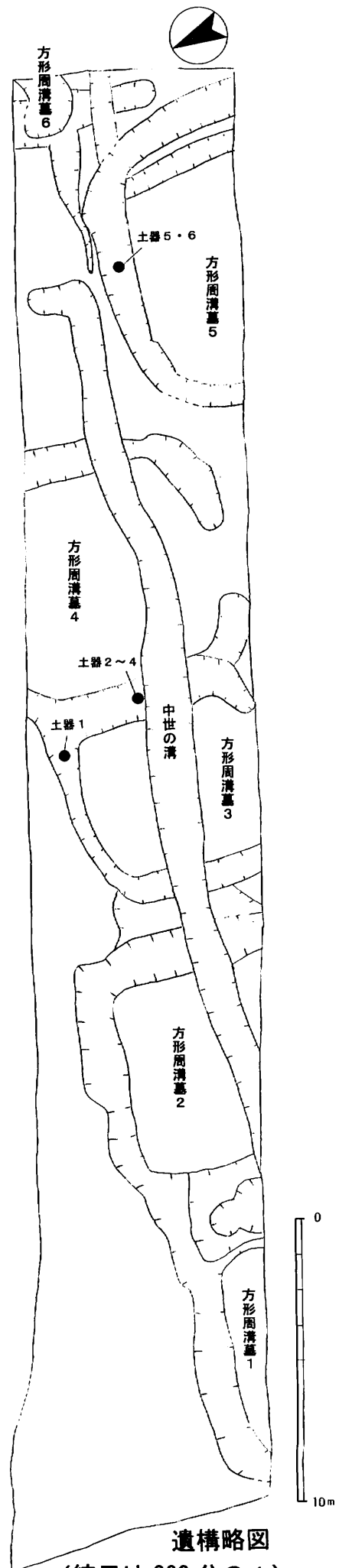
※ 方形周溝墓：方形の範囲を溝（周溝）で囲み、その中に棺を埋めた墓。

方形周溝墓

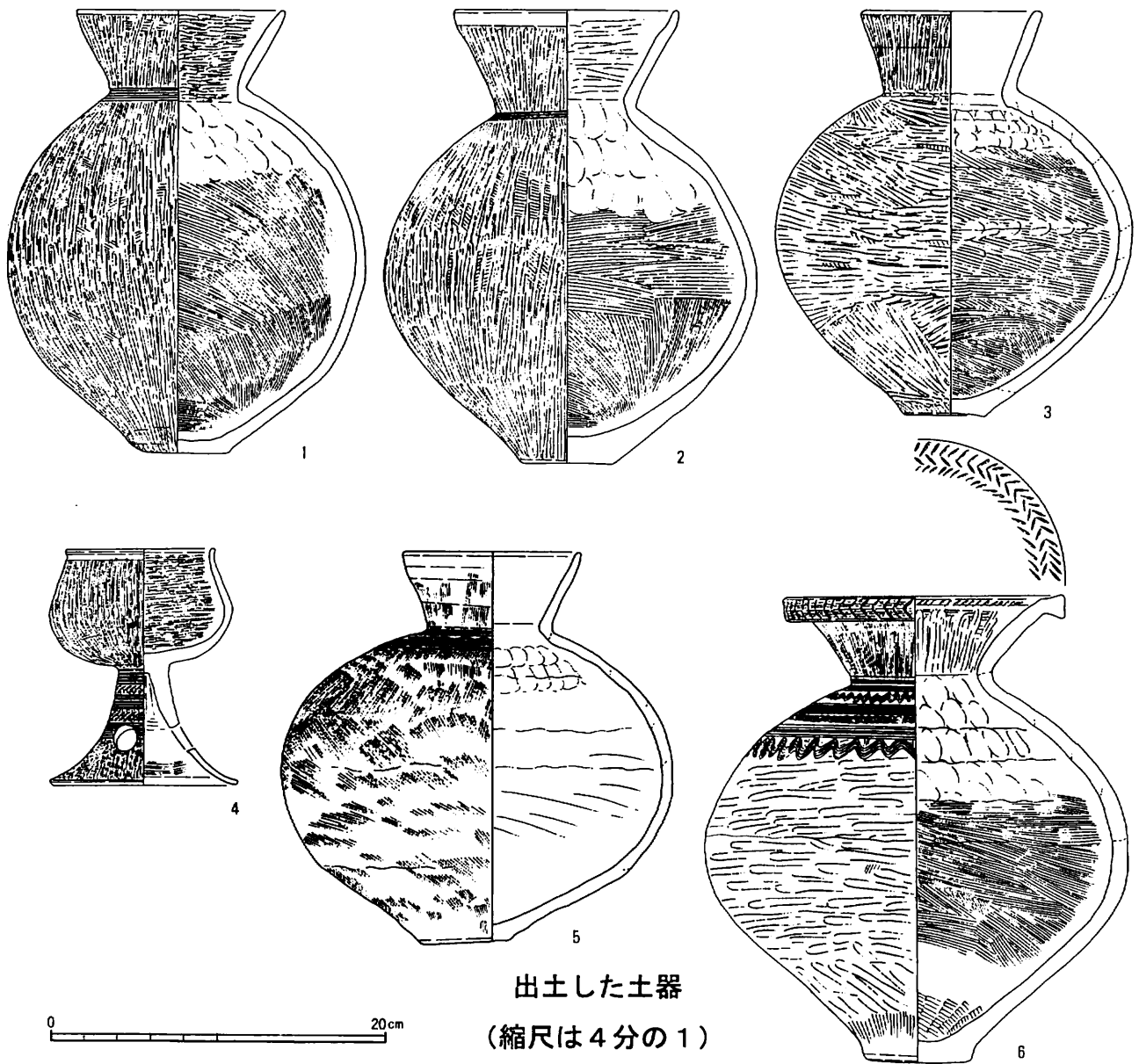
方形周溝墓は、いずれもほぼ同じ方向で、大きさは周溝内側で5～9mのものです。3・4は南側で周溝が切れています。入り口として空けていたのでしょう。また、1と2、3と4が周溝を接していました。これらは周溝を共有していた可能性があります。図示した遺物は、いずれも周溝から出土したものです。

中世の溝

ほぼ東西方向の溝で、東端で北に曲がっています。出土した土器は鎌倉時代や室町時代のものがほとんどですが、古代の大甕で、焼いたときに壊れたと考えられるものや瓦も出土しています。



遺構略図
(縮尺は 200 分の 1)



4 まとめ

今回の調査で見つかった、弥生時代終わりごろの方形周溝墓は、天花寺丘陵上にある小谷赤坂遺跡で確認された集落とほぼ同じ時期のものです。小谷赤坂遺跡では墓がほとんど見つかっていませんでした。小谷 A 遺跡は、小谷赤坂遺跡で暮らしていた人々のお墓の区域であった可能性があります。

遺跡名：小谷A遺跡
 原因事業名：平成20年度道路改築事業（主）松阪一志線
 調査主体・担当：三重県教育委員会・三重県埋蔵文化財センター
 調査協力：地元自治会・松阪市教育委員会、松阪建設事務所
 所在地：三重県松阪市嬉野天花寺町
 調査期間：平成20年6月30日～平成20年8月25日
 調査面積：389㎡